

令和6年12月

さいたま市の財政



のびのび
さいたま市



はじめに

市が提供するさまざまな行政サービスは、市民の皆様に納めていただいた税金や、国・県からの支出金などによって賄われています。

市では、それらがどのように使われているか、また、執行の状況はどうなっているかなどをお知らせするために、「さいたま市財政状況の公表に関する条例」に基づき、「さいたま市の財政」を毎年2回（6月、12月）公表しています。

今回は、令和5年度の決算の概要と、令和6年度上半期の財政状況をお知らせします。

もくじ

1 令和5年度決算の概要	1
2 令和6年度歳入歳出予算の執行状況	
・ 一般会計	5
・ 特別会計	7
3 令和6年度予算の使いみちと市税負担	9
4 財産、地方債及び一時借入金の現在高	10
5 企業会計の状況	11

1 令和5年度決算の概要

決算の特徴

- ◆ 令和5年度は、政令指定都市として二十歳を迎えた本市が、大都市としての成熟を深めながら、次なるステージへと飛躍するべく、ポストコロナを見据えた取り組みを進めました。
- ◆ 「感染症や自然災害に備えた強靭な都市づくり」、「ポストコロナを見据えたさいたま市の魅力づくり」、「誰一人取り残さない持続可能でインクルーシブな地域づくり」、「公民学共創と質の高い市役所づくり」を4本の柱として、さいたま市の新時代へのシンカに取り組んだことにより、一般会計の決算規模は、過去最大となりました。

決算の総額

一般会計

福祉、教育、道路・公園の整備など、市の基本的なサービスを行う会計で、主に市税で賄われています。

福祉

教育

土木

など

歳入 6,815億円

歳出 6,669億円

特別会計

国民健康保険や介護保険のように、特定の収入を特定の支出に充てるため、一般会計と区別している事業の会計です。さいたま市には13の特別会計があります。

国民
健康
保険

介護
保険

都市
開発

など

歳入 3,274億円

歳出 3,255億円

企業会計

民間企業と同じように、基本的には事業の収益で賄われている会計です。さいたま市には水道事業、病院事業、下水道事業の3つの会計があります。

水道
事業

病院
事業

下水道
事業

歳入 1,035億円

歳出 1,313億円

全会計合計

歳入 1兆1,124億円

歳出 1兆1,238億円

※四捨五入の関係で各項目の合計と一致しません。

主な事業

感染症や自然災害に備えた強靭な都市づくり

決算額 76億5,571万円

市民の生命及び健康を守るため、ワクチン接種体制の確保及び予防接種を推進するとともに、感染症危機のリスクに対応できるよう地域医療体制の充実を図りました。また、首都直下地震や激甚化する自然災害への対策強化のため、治水対策施設の整備、都市・生活インフラの耐震性の確保などに取り組みました。

ポストコロナを見据えたさいたま市の魅力づくり

決算額 9億4,021万円

ポストコロナに向け、新たなニーズを捉えつつ、さいたま市らしさを深化させました。また、新庁舎整備・現庁舎地の利活用の検討、東日本の中核都市として地域経済の活性化など、本市独自の成熟した大都市のかたちを築き上げました。

誰一人取り残さない持続可能でインクルーシブな地域づくり

決算額 11億4,890万円

少子高齢化の進行、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響による経済活動の停滞など、社会経済状況が大きく変化し続ける中、本市が持続可能な成長・発展を続けていくために、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を基に、セーフティネットを確保しつつ、誰もが住みやすく持続可能な地域社会の実現を目指しました。

公民学共創と質の高い市役所づくり

決算額 2億8,101万円

多様化する市民ニーズや新しいライフスタイルに対応するため、従来の行政の在り方を絶えず見直し、市民の皆様と職員がともに幸せになる「Well-being（幸せ）経営」の実現に向けて取り組みました。また、多様化・複雑化する行政課題に柔軟に対応するため、公民学共創をより一層推進し、新たな時代に対応する市役所の創造に向けて取り組みました。

上質な生活都市・東日本の中枢都市の実現に向けて

総合振興計画が掲げる「上質な生活都市」「東日本の中枢都市」という2つの将来都市像の実現に向けた取組として「重点戦略」と「質の高い都市経営の実現」に沿って、令和5年度の主な事業の一部を紹介します。

重点戦略1 「さいたま」の5つの魅力を生かして、成長・発展する戦略

先進技術で豊かな自然と共存する環境未来都市の創造

見沼田園の保全と新たな活用・創造の推進
決算額 5,250万円

「農・自然・歴史とふれあう、憩いのふるさと“みぬま”」を実現するため、二酸化炭素吸収の見える化等を実施する実証実験の環境を整えるとともに、情報発信力を強化しました。

市有施設への再生可能エネルギー設備等の導入
決算額 5,356万円

温室効果ガス排出量を削減するとともに、災害に強い持続可能なまちづくりを目指すため、公民館における再生可能エネルギー設備等の導入を推進しました。

一人ひとりが“健幸”を実感できるスマートウエルネスシティの創造

運動習慣の獲得に向けた健康マイレージの推進
決算額 1億5,521万円

ICTを活用し、楽しみながら継続的な運動習慣の獲得を図るため、歩数等に応じてポイントを付与する健康マイレージを実施するとともに市民が利用しやすい新システムを構築しました。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施
決算額 3,407万円

医療・介護のデータから地域の健康課題を把握し、低栄養予防等を目的とした個別的な保健指導や、「通いの場」等での健康教育・健康相談等を実施しました。

笑顔あふれる日本一のスポーツ先進都市の創造

アーバンスポーツの活性化
決算額 1,441万円

アーバンスポーツを楽しむ環境の整備に向けて、アーバンスポーツ研究会を設置し、意見聴取をするとともに、初心者や親子向けの体験機会の提供やルール・マナーの啓発を行いました。

JCHOさいたま北部医療センター跡地利活用の推進
決算額 958万円

JCHOさいたま北部医療センター跡地に、民間事業者が主体となって整備するスポーツ施設と公民館・児童センター等からなる複合施設を整備するため、地質調査や公募条件の整理等を行いました。

子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市の創造

不登校等児童生徒支援センター（Growth）の機能強化
決算額 1,721万円

不登校等児童生徒支援センター（Growth）において、学習支援等を補助する外部人材やメタバースを活用したオンライン学習を新たに導入し、学習支援・相談支援の充実を図りました。

市立小学校における35人学級の推進
決算額 3億6,814万円

市立小学校の35人学級の実施等による学校の教室を確保するため、教室改修及び仮設校舎の設置を行うとともに必要な物品を購入しました。

ヒト・モノ・情報を呼び込み、東日本の未来を創る対流拠点都市の創造

さいたまセントラルパークの整備の本格化
決算額 10億9,519万円

緑の核となり、地区内外から多くの人が訪れるさいたまセントラルパークの整備を推進しました。

東日本連携の推進による地域経済活性化
決算額 2,810万円

「東日本連携・創生フォーラム」を開催するとともに、東日本地域の商材の販路拡大やビジネス交流を進めることで、東日本全体の地域経済を活性化しました。

重点戦略2 未来に引き継ぐための持続可能なまちづくりを進める戦略

子どもから高齢者まで、あらゆる世代が輝けるまちづくり

多子世帯子育て応援金給付の実施

決算額 4,716万円

多子世帯の育児に要する費用の経済的負担を軽減するため、第3子以降の子どもが生まれた家庭に対し、子育て応援金を支給しました。

認知症の人にやさしい地域づくりの推進

決算額 9,936万円

認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、認知症センターの養成や初期集中支援チームの設置等、切れ目ない支援を実施しました。

激動する新時代に「未来技術」で躍動する地域産業づくり

中小企業の生産性・付加価値向上を通じた成長促進支援

決算額 4億87万円

市内中小企業の持続的な成長に向け、経営基盤強化と事業継続力向上の総合的な支援及びDX推進による生産性と付加価値向上を支援しました。

就労支援の充実

決算額 7,811万円

求職者向けデジタル活用スキル習得支援講座の実施など求職者の世代・状況に応じた支援を実施するとともに、企業と求職者のマッチングにより市内企業等の人材確保を支援しました。

災害に強く、市民と共につくる安全・安心なまちづくり

同報系防災行政無線の充実強化

決算額 2億9,405万円

同報系防災行政無線の運用管理を行うとともに、基幹設備の更新を行うことにより、他の情報配信サービスとの連携を図り、災害時において市民へ必要な情報を迅速に伝達しました。

地域の自主防犯活動や防犯カメラの設置等の支援

決算額 3,305万円

市民、事業者、警察等関係機関との連携の下、防犯や暴力排除の意識の向上を図り、地域の自主防犯活動の支援や暴力排除活動を推進しました。

環境に配慮したサステナブルで快適な暮らしの実現

一般廃棄物減量施策の推進

決算額 1,701万円

循環型社会実現のため、食品ロス削減を含む一般廃棄物の3R（発生抑制・再利用・再生利用）に向けた取組を進め、プラスチックごみの更なる資源化について実証実験を実施しました。

サーマルエネルギーセンター整備事業

決算額 60億2,118万円

東部環境センターと西部環境センターを統廃合するため、サーマルエネルギーセンターを建設しており、新施設のプラント機器設置工事を実施しました。

絆で支え合い、誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

自治会への加入促進

決算額 233万円

自治会向けICT活用に関する講座及び自治会電子回覧板モデル事業を実施しました。

アーツカウンシルの充実

決算額 7,009万円

専門人材による調査研究、芸術活動支援及び文化発信プロジェクトなどの象徴的事業を実施するアーツカウンシルを運営し、文化芸術推進体制を強化しました。

質の高い都市経営の実現

LINEを活用した情報発信の強化

決算額 151万円

市民が求める分野の情報をプッシュ型で届けるなど、LINEを活用した情報発信の強化に取り組みました。

さいたま市『ふるさと応援』寄附の受入拡大

決算額 2億8,748万円

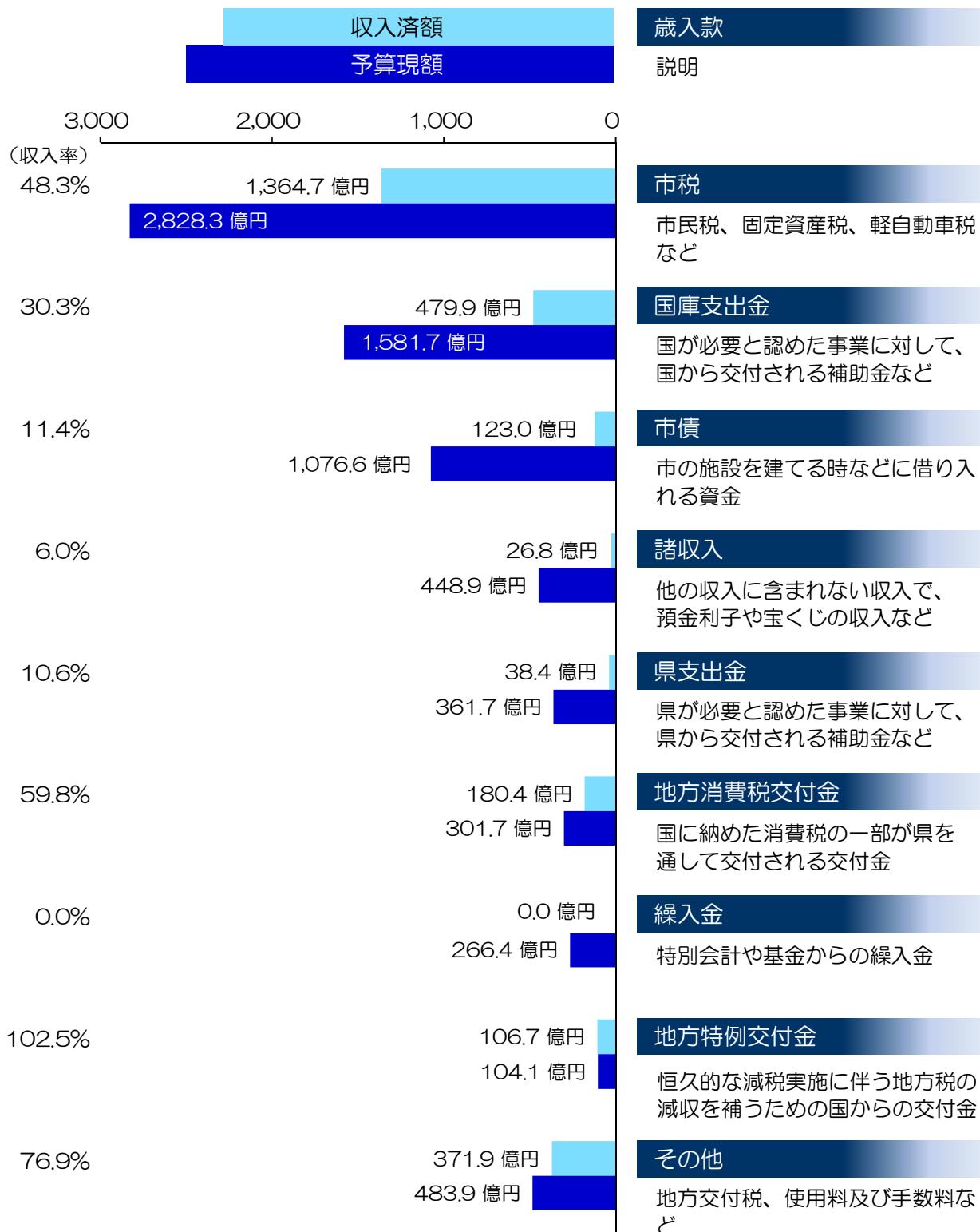
返礼品や外部ポータルサイトを拡充し、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用するとともに、企業版ふるさと納税の更なる活用を図るために、企業へのPR活動を推進しました。

2 令和6年度歳入歳出予算の執行状況

一般会計

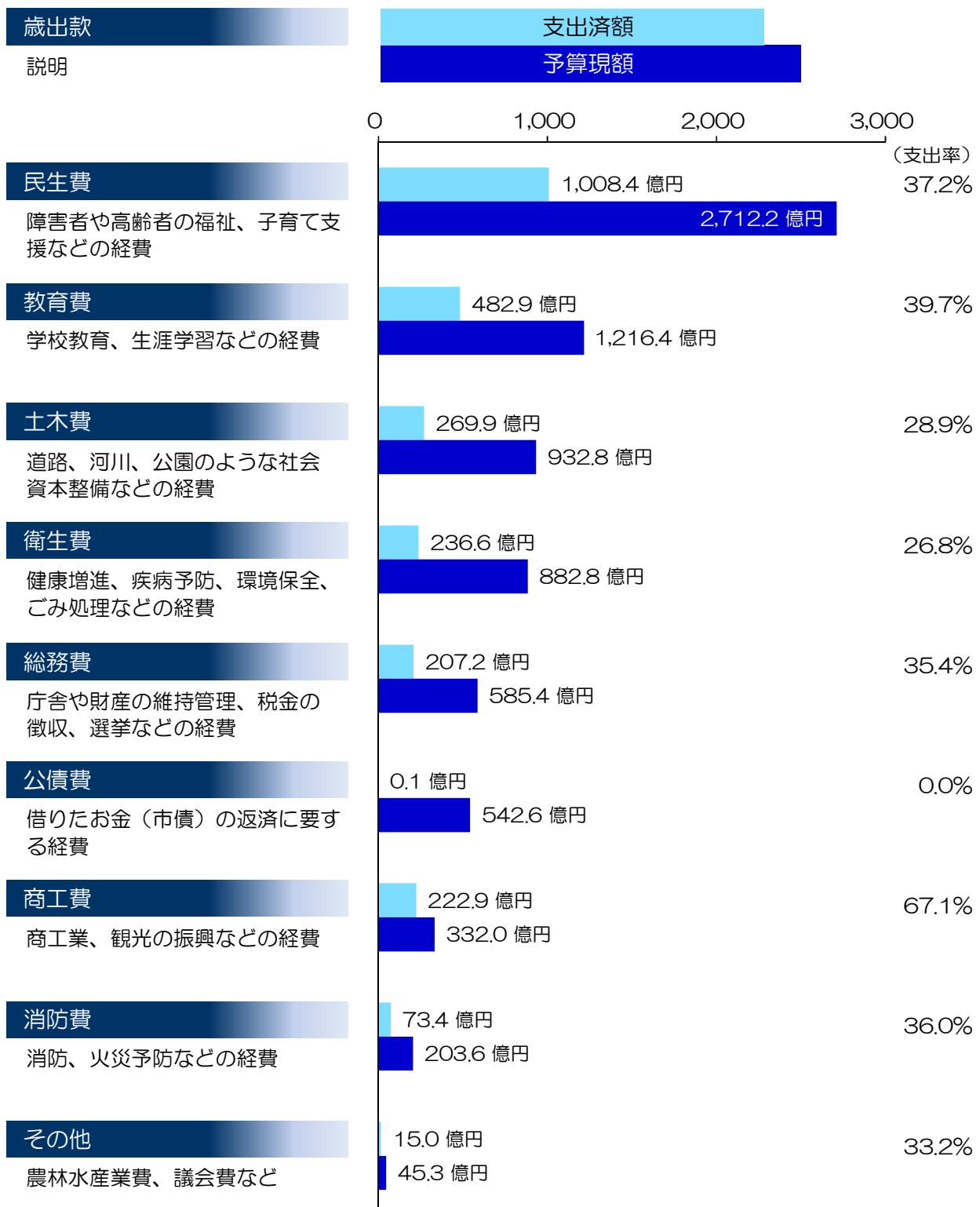
※予算現額は、当初予算額に補正予算額と前年度繰越額を加えた令和6年9月末の予算額を表します。
補正予算額には、9月末時点で成立していないものは含まれていません。

$$\text{歳入} - \frac{\text{収入済額 } 2,691\text{億}9,001\text{万円}}{\text{予算現額 } 7,453\text{億}1,662\text{万円}} = \text{収入率 } 36.1\%$$

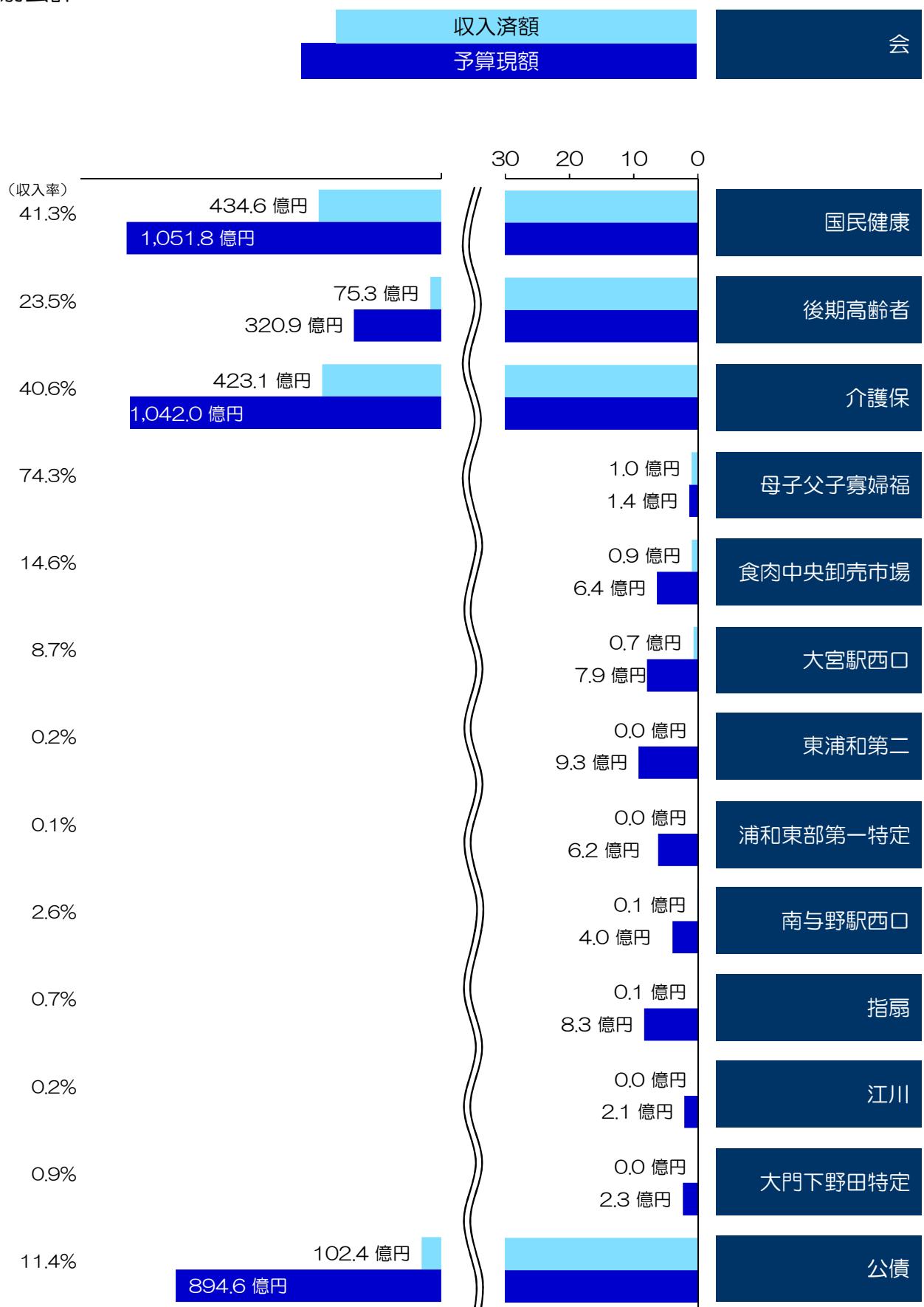


※収入率及び支出率は、円単位の額で算出しているため、上記（億円単位）の額で算出した率と一致しない場合があります。

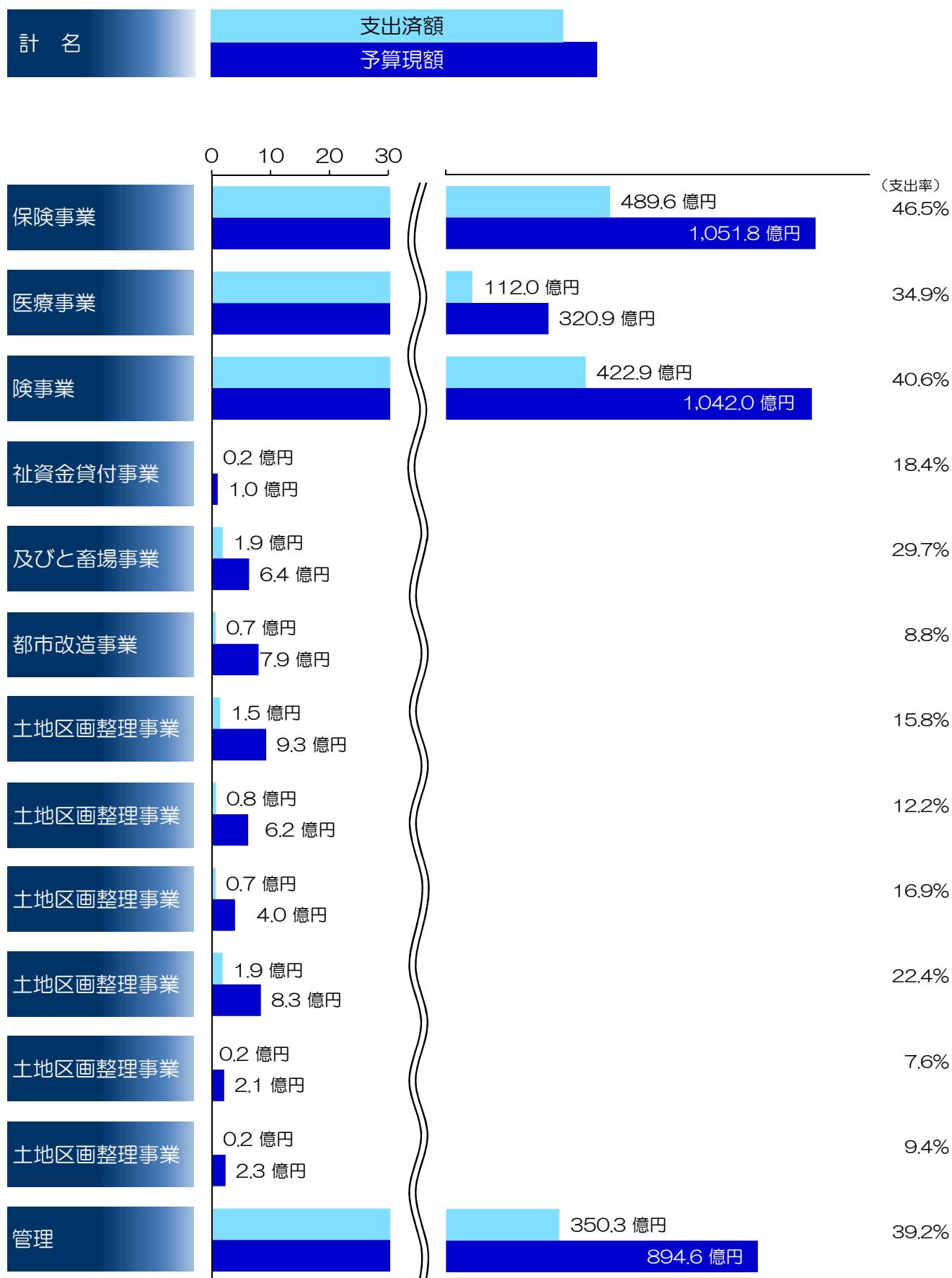
$$\text{歳出} = \frac{\text{支出済額 } 2,516\text{億}4,592\text{万円}}{\text{予算現額 } 7,453\text{億}1,662\text{万円}} = \text{支出率 } 33.8\%$$



特別会計



※収入率及び支出率は、円単位の額で算出しているため、上記（億円単位）の額で算出した率と一致しない場合があります。



3 令和6年度予算の使いみちと市税負担

※区分ごとに四捨五入しているため、各数値の合計と総額は一致しない場合があります。

市民一人当たりの予算の使い方

1

民生費



200,898円

歳出（一般会計）を、
市民一人当たりに換算すると、

552,067 円

※市民一人当たりの歳出の額を、目的別で金額の多い順に並べています。

※令和6年10月1日現在の人口（1,350,047人）を基に算出（以下同様）

2

教育費



90,098円

3

土木費



69,097円

4

衛生費



65,392円

5

総務費



43,359円

6

公債費



40,193円

7

商工費



24,595円

8

消防費



15,083円

その他

農林水産業費
議会費
労働費
予備費
災害復旧費

3,352円

市税負担の状況

市税を、市民一人当たりに換算すると、

209,495 円

市民税



113,268円

固定資産税



69,971円

都市計画税

15,135円

市たばこ税

6,181円

事業所税

3,607円

軽自動車税

1,331円

その他

3円

4 財産、地方債及び一時借入金の現在高

※区分ごとに四捨五入しているため、各数値の合計と総額は一致しない場合があります。

財産の現在高

土地	建物	基金
3,220万m ²	271万m ²	939億円

その他の財産

区分	9月末現在高
立木	7,274m ³
公物権	27万m ²
無体財産権	18件
有価証券	97億円
出資による権利	19億円
物品	4,918点
債権	27億円

※物品は、取得価格が1点100万円以上の備品の令和5年度末現在高のみ掲載しています。

※基金現在高の内訳

- 財政調整基金：年度間の財源不均衡を調整するために設置される基金で、決算剰余金等を積立て、必要に応じて取崩しを実施。 376億円
- 減債基金：地方債の償還を計画的に行うために設置される基金で、計画に応じて積立て・取崩しを実施。 251億円
- その他特定の目的のために設置される基金：公共施設の老朽化対策など、事業の目的に応じて積立て・取崩しを実施。 312億円

地方債の現在高

(単位:億円)

会計	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込み)
一般会計	4,624	4,652	4,665	4,833	5,149
特別会計	86	71	73	66	58
企業会計	水道事業 病院事業 下水道事業	429 333 1,801	416 319 1,785	422 312 1,759	437 293 1,737
合計	7,273	7,243	7,230	7,366	7,685

(参考) 地方債の現在高の推移 (一般会計)

(単位:億円)



■ 地方債残高 (臨時財政対策債除く) ■ 臨時財政対策債残高 ※令和5年度までは決算額、令和6年度は見込額。

一時借入金の現在高

令和5年度下半期に引き続き、令和6年度上半期における借入れではなく、令和6年9月末現在の残高はありません（一時借入金は金融機関からの借入れを指し、基金や会計間の繰替運用によるものは含みません。）。

5 企業会計の状況

水道事業

現在、本市の人口は増加傾向にあります、将来的には減少に転じ、あわせて給水人口や給水収益も減少していくと推測されます。

一方で、浄水場、配水場や管路の老朽化が進み、その更新需要は更に増加していく見込みです。また、災害時においても安定した給水を行うため、耐震化対策を推進する必要があります。物価高により工事費用が上昇する中、これらを計画的に進めていくことが課題となっています。

水道局では、このような環境の変化や脱炭素などの重要な課題に対応するため、「さいたま市水道事業長期構想（2021－2030）」（令和3年3月策定）の下、財政とバランスの取れた施設整備やデジタル化の推進などを通じ、効率的かつ効果的に事業を運営していきます。

令和5年度決算の概要

決算額

48,604,417千円

(主な事業)

(単位:千円)

水道施設整備事業	12,942,096
水道施設の改良更新、耐震化等の整備を計画的に進めました。	

病院事業

本市が運営する唯一の公立病院であるさいたま市立病院は、地域の基幹病院として、地域医療における中核的な役割を果たしていますが、救急・周産期・感染症・災害等の不採算・特殊部門に係る医療の多くを公立病院が担っている中、全国的に公立病院を取り巻く経営環境や医療提供体制の維持が極めて厳しい状況となっています。

このような状況の下、さいたま市立病院では、市民が地域の中で必要な医療を受けることができる「地域完結型医療の要」として、安定した医療提供体制を維持するため、中期経営計画に基づき、医療機能の充実と健全な経営基盤の確立を図ります。

令和5年度決算の概要

決算額

33,016,495千円

(主な事業)

(単位:千円)

市立病院医療機器等整備事業	356,001
質の高い医療の提供及び病院機能の拡充のため、医療機器等を整備しました。	

下水道事業

自然災害への備えや下水道施設の老朽化による事故を未然に防止し、豊かな自然環境や快適な生活環境を創りつづけていくため、主要事業である下水道浸水対策事業、下水道施設老朽化対策事業、下水道汚水事業を推進していきます。

また、令和3年3月に策定した「さいたま市下水道事業中期経営計画」に基づき、市民・企業に安定的・継続的に下水道サービスを提供するため、現行使用料水準を維持しつつ、下水道事業の健全な経営を継続していきます。

令和5年度決算の概要

決算額

49,684,693千円

(主な事業)

(単位:千円)

下水道浸水対策事業	3,662,301
浸水被害の軽減を目的とした雨水管及び雨水貯留施設等の整備を推進しました。	
下水道施設老朽化対策事業	3,970,813
下水道施設の老朽化に伴い、予防保全の観点から計画的な改築を行うとともに、緊急輸送道路下などの重要な下水道管の耐震化を推進しました。	
下水道汚水事業	2,767,736
合併処理浄化槽との役割分担により、事業効率が高い区域の汚水整備を推進しました。	

■ 計理の概況(令和6年度上半期) (単位:千円)

科目	金額
資産	239,938,491
(1) 固定資産	220,310,243
(2) 流動資産	19,628,248
負債	76,907,552
(1) 固定負債	42,968,549
(2) 流動負債	6,737,408
(3) 繰延収益	27,201,595
資本	156,455,475
(1) 資本金	144,349,735
(2) 剰余金	12,105,740
収益	14,596,767
うち営業収益	14,471,607
費用	7,579,853
うち営業費用	7,261,479
整理勘定（中間勘定）	441,450

(単位:千円)

	収入		支出	
	収入額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	16,036,626	47.9%	8,191,467	27.7%
資本的収支	9,601	0.1%	4,927,291	18.5%

■ 事業の概況(令和6年度上半期)

項目	前年同期	当期	対前年度
給水件数	645,553	653,102	101.2%
給水量 (m³)	67,229,420	67,180,440	99.9%
一日平均	367,374	367,106	99.9%
給水量 (m³)			

■ 計理の概況(令和6年度上半期) (単位:千円)

科目	金額
資産	40,079,177
(1) 固定資産	35,515,912
(2) 流動資産	4,563,265
負債	34,360,429
(1) 固定負債	30,993,540
(2) 流動負債	2,256,619
(3) 繰延収益	1,110,270
資本	6,089,571
(1) 資本金	9,233,006
(2) 剰余金	▲ 3,143,435
収益	10,380,704
うち医業収益	10,270,725
費用	10,750,390
うち医業費用	10,650,424
整理勘定（中間勘定）	1,137

(単位:千円)

	収入		支出	
	収入額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	10,410,731	40.3%	10,964,301	36.7%
資本的収支	591,892	36.4%	1,970,006	58.6%

■ 事業の概況(令和6年度上半期)

項目	前年同期	当期	対前年度	
病床数	637	637	100.0%	
入院患者数	一般病床	87,048	91,038	104.6%
	結核・精神	3,576	4,153	116.1%
一日平均	一般病床	475.7	497.5	104.6%
入院患者数	結核・精神	19.5	22.7	116.4%
外来患者数		134,002	131,740	98.3%
一日平均外来患者数		1,080.7	1,062.4	98.3%

■ 計理の概況(令和6年度上半期) (単位:千円)

科目	金額
資産	414,407,168
(1) 固定資産	405,422,146
(2) 流動資産	8,985,022
負債	269,783,534
(1) 固定負債	163,005,674
(2) 流動負債	9,747,240
(3) 繰延収益	97,030,620
資本	138,645,680
(1) 資本金	136,534,904
(2) 剰余金	2,110,776
収益	12,258,423
うち営業収益	12,253,179
費用	3,578,158
うち営業費用	2,567,697
整理勘定（中間勘定）	2,702,311

(単位:千円)

	収入		支出	
	収入額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	13,108,275	49.6%	3,808,524	15.0%
資本的収支	481,412	2.7%	9,257,459	30.4%

■ 事業の概況(令和6年度上半期)

項目	前年同期	当期	対前年度
汚水処理戸数	562,012	571,881	101.8%
汚水処理水量	73,340,001	83,357,687	113.7%
(m³)			
一日平均汚水 処理水量 (m³)	400,765	455,506	113.7%



この冊子は150部作成し、1部当たりの印刷経費は88円（概算）です。

令和6年12月
編集発行／さいたま市財政局財政部財政課
TEL 048-829-1154
FAX 048-829-1974